

本宿自治会 震災対策のお願い

家庭保存版

当本宿自治会としての準備対応及び発災後の対応等について、明記しておりますので、熟読後は各家庭の備品として管理してください。

さて、現状を記しますと、

- 1、赤松町は昭和20年代までは砂丘でしたが、その後、開発された住宅地ですので、震災の際は液状化が避けられません。
- 2、茅ヶ崎市の住宅街は国内有数の、**火災クラスター(火災延焼拡大地域)**です。
- 3、ですので災害が発生した場合には、**火災を発生させない事**が大前提となります。
- 4、断水時は水洗トイレは使用できません。**災害用トイレキット**を用意してください。
- 5、震災発災後は、点検が済むまで、上下水道、ガスは使用できません。
- 6、ですので汲み置きの水等でトイレなどを流さないでください。もし、途中で下水管が破損している場合は、大変なことになります。
- 8、**広域避難場所**は**湘南カントリークラブ**、**地区防災拠点**は**小和田小学校**です。湘南カントリークラブは東小和田交差点角のマツキヨに案内板があります。山方向に進むと、途中案内板が有り、高台の左側奥となります。1度行って見て下さい。以上が現状となります。当書を熟読の上、良く内容を理解して行動して頂くことが一人一人の安全につながります。

準備編

いざという時、人間は飲食は我慢出来るものですが、トイレは我慢できません。速やかに、**簡易防災トイレキット**を用意してください。必ず備蓄する物（ひとり30日分です。）

- ・**簡易防災トイレキット** 男性1日3セット×30=90~150セット
(通販等で販売してます。) 女性1日5セット×30=150~200セット
- ・飲料水 2Lペットボトル×30=30~45本60~90L
- ・食料 各自の30日分(回転ストックの出来る物)
- ・カセットコンロ、カセットボンベガス 必要量
- ・スマホ、PC充電用 ソーラーバッテリー充電器
- ・家庭用消火器(当建物では過去に失火により、1室全焼の経験があります)
- ・バッテリーライト(懐中電灯とランタン両方必要です。また、乾電池式と充電式両方があれば、後にソーラー充電できます。)

以上、上記は最低限必要と思われる数量です。

上記以外の備蓄については一般的な防災備蓄品を各自必要な分、備蓄して下さい。

最終的には各自必要な物を必要なだけ準備して下さい。

尚、**トイレトーパー、ティッシュペーパー**等は南海トラフ地震の津波地域(静岡、愛知、四国の沿岸)で国内消費量の80%以上を生産しておりますので、災害発生後、数か月は大幅な品不足となります。

ミネラルウォーターは南海トラフ地震後、1週間で備蓄を含めた国内在庫は無くなり、以後は国内生産分と輸入分となりますので、当分の間は不足します。

その他

- ・防災拠点、避難所、広域避難場所、自治会館はご自身で確認して下さい。
- ・年に2回以上開催される防災訓練には積極的に参加して、最新の防災情報を得て下さい。

震災発生時及び直後

揺れが収まるまで、安全を確保の上、お待ちください。

揺れが収まりましたら、日中の場合は、以下の通り行動して下さい。

- 1、揺れが収まるまで、安全を確保の上、お待ちください。
- 2、**火の元**、停電の**確認**する。
- 3、ブレーカーを下げて、通電を遮断する。**通電火災を防ぐ**
- 4、**上水管**の損傷による、水漏れがないか、**確認**する。
- 5、**排水管**の損傷による、水漏れがないか、便器の貯め水の**確認**する。
- 6、速やかに**災害用トイレキットを便器に設置**する。
- 7、電気製品の破損による**通電火災**を防ぐために、**コンセント全て取り外す**。

夜間の場合は

- 1、停電の確認を行い、バッテリーライトを点灯する。
- 2、火の元を確認する(火事の発生の有無の確認)
- 3、以降は日中の場合と同じです。

ここまで速やかに安全に行います。

近隣で**火災が発生**している場合には、**ブレーカーが下がってをいる(通電が無い)**事を確認して、周辺の状況を考慮の上、戸締りをして、**広域避難場所に避難**しましょう。

震災発災後

停電していなければ、最低限必要な電気機器(冷蔵庫、テレビ、パソコン、充電器)のコンセントを1台ずつ差し込み、機器の破損等を確認してください。

また、住居が住める状態では無くなった場合は**避難所**である**小和田小学校**へ避難しましょう。

最後になりますが、今まで各地で大災害が発生した場合でも、東京圏が殆ど無傷で有った為に、災害発生後2、3日で物資等の配布などが、行われましたが、南海トラフ地震や首都直下型地震ではそれは望めません。ましてや、南海トラフの場合は関東、中京、関西の各経済圏も大きな被害を受けます。救援物資等も多くは海に近い倉庫等に備蓄されてますので、考えるまでもありません。

しっかり自分の命は自分で守りましょう。

現実には自助95%、共助4%、公助1%であることを理解しましょう。

本宿自治会の災害対策本部は本宿自治会館に設置します。